



がっ ど い りんぼかん
10月 土居隣保館カレンダー

にち 日	げつ 月	か 火	すい 水	もく 木	きん 金	ど 土
1	2 じんけん どうわきょう 人権・同和教育 いくけんきょうぎかい 育研究協議会 じぜんほうこくかい 事前報告会 18:00~	3 じんけん どうわきょう 人権・同和教育 いくけんきょうぎかい 育研究協議会 じぜんほうこくかい 事前報告会 18:00~	4	5 入0-1ア0ビ ック 10:00~	6	7
8	9	10	11 どいちゅう 土居中 こども かい 会 17:30~	12 入0-1ア0ビ ック 10:00~	13	14
15	16 ゆうゆう 悠遊クラブ 10:00~	17	18	19 入0-1ア0ビ ック 10:00~	20	21
22	23	24 からてきょうしつ 空手教室 20:00~	25	26 どいちゅう 土居中 こども かい 会 19:15~	27	28
29	30 クラフトバ ンド教室 きょうしつ 10:00~	31 どいしやう ねん 土居小3年 せいがくしゅうかい 生学習会 9:30~				

りんぼかん じんけんそうだん しょくぎょうそうだん おこな
隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

なや
悩んでいることはありませんか？

りんぼかん じんけん かか なや そうだん まどぐち しょくば しょくば
隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場
がっこう い なん そうだん じゅんかいそうだん しょくぎょうそうだん
や学校に行けぬ」など何でも相談してください。また、ハローワークの巡回相談（職業相談）
おこな じゅんかいそうだん でんわ よやくせい こんねんど
を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。今年度より、ハローワーク
しょくいんげん ていきかいさい りょうかい
職員減により定期開催はなくなりましたので、ご了解ください。



ど い りんぼかん だよ
土居隣保館便り

れいわ ねん
令和5年
10 がっこう
月号

はっこう ど い りんぼかん しこくちゅうおうしどいちやうふじわら
発行:土居隣保館 〒799-0703 四国中央市土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356

シリーズ この人に聞く 2

しこくちゅうおうしじんけんきょういくきょうぎかいかいちやう 橋本 裕式さん
四国中央市人権教育協議会会長



はしもと なが きやういんせいかつ さべつかいしやう
橋本さんは、長い教員生活の中で、差別解消につ

こ たち しんけん はな あ はんさべつ おも きやう
いて子ども達と真剣に話し合い、反差別の思いを共

ゆう なかま たいせつ ちいき
有する仲間づくりを大切にしてきました。また、地域

ひと たちから おお はなし きやうさい
の人たちから多くの話を聞き、それを教材として、

ひと たいせつ つね たち きやうしよくいん はっしん
人として大切なことを常に子ども達や教職員に発信していました。

こんかい じんけんきやういくきやうぎかい かいちやう さべつかいしやう せんとう た かつやく はしもと
今回は、人権教育協議会の会長として、差別解消の先頭に立ってご活躍されている橋本さん

はなし うかが
にお話を伺いました。

1 じんけん どうわきやういく すず うえ たいせつ おし
人権・同和教育を進めていく上で大切にしていることを教えてください。

たいせつ ひさべつ してん ものごと み こうどう じんげん ほんらい
いつも大切にしていることは、被差別の視点で物事を見ること、そして行動することです。人間は、本来や

あたた とも わす おも
さしさや温かさを持っていることも忘れてはならないと思っています。

ぜったい わす きべつ がわ なん せきにん きべつ がわ 100% わる
絶対に忘れてはならないのは、差別はされる側に何の責任もなく、差別する側が 100%悪いということ

おお ひと わ かつどう おも
す。それを、多くの人々が分かるように活動していきたいと思ひます。そして、差別をなくそうとする人のつなが

つよ ひろ まいにちかつどう
りを、強く広くしていくために、毎日活動しています。

2 今までの活動で、特に心に残っていることはどんなことですか。

教員時代に、「生きることは」の冊子を作ったことは、今も心に残っています。地域の先輩方に聞き取りを行い、これまで差別とどう向き合い、闘ってきたのかということをお話していただきました。その時の先輩達の言葉ひとつひとつが、差別を許さない今の自分の原動力になっています。

また、教え子達と差別を許さない学習をした時に、クラス全体が差別に怒りを持ち、差別をなくそうという思いを共有し、みんながひとつになった時のことも忘れられません。

子ども会の活動では、子ども達や保護者と楽しく心に残る活動をし、地域の中に信じあえる絆ができ、仲間としてつながったことが嬉しかったです。

3 差別解消の先頭に立って活動されていますが、嬉しかったことや悔しかったことはありますか。

部落差別としっかり向き合っている先生が増えてきたと思います。先生と子ども達が真剣に差別と向き合う授業を見たときはとても嬉しいです。ただ、教師や人対協の方など多くの人が差別を訴え続けているのに、今もなお、差別を残そうとする意識を持ち続けている人がいることが悔しいです。

また、市民意識調査で差別をなくそうという人の割合が低く、同和問題に無関心な人が多いことが問題だと思っています。そして、身元調査お断りでも、10人中3人が身元調査をするという人がいることも大きな問題です。「寝た子を起すな。」と言う考え方が多いのも悔しいことです。

4 同和問題を解決するためには、私達ひとりひとりの反差別への思いと行動が大切だと思います。

最後にみんなに伝えたいことをお話しください。

戦争も差別も人を苦しめるものです。人は武器を持って他者の命を奪うために生まれてきたのではないし、理不尽に命を奪われるため生まれてきたのでもありません。私達は、人の幸せや自由を奪うために生まれてきたのでも、差別されるために生まれてきたのでもありません。人間を苦しめる戦争と差別とは断固

闘っていきます。

どんな時でも、戦争や差別に対して、はっきり「NO」と言える世の中をつくっていきましょう。人間は、尊敬し合うために生まれてきたことを共感し合える温かい世の中を一緒に作りましょう。

橋本さんのインタビューから、私達ひとりひとりが差別解消への強い思いを持って、行動していくことが大切だと思いました。

自分は何ができるかを考え、行動していく第一歩を踏み出すことから始めませんか。

サマーキャンプ



8月29日(火)土居隣保館において、4地区合同サマーキャンプを開催しました。今年度は、低学年の参加もあり、児童15名と先生12名が参加し総勢37名で、様々なゲームをしました。3グループに分かれて児童と先生が協力して楽しい時間が過ごせました。初めて会った友だちと話したりゲームをしたりして、仲良くなったようです。また、先生たちも童心に戻って子ども達と一緒にゲームを盛り上げてくれました。子ども達の感想には、「楽しかった。」「夏休みのいい思い出ができました。」と書かれていて私たちもうれしかったです。

